

## GR スコア 2023 の状況

Research Report  
2023 年 11 月社会システム研究所  
主席研究員 杉浦 康之

## 要 約

日興リサーチセンターでは、日本企業のコーポレートガバナンスの強さを評価する GR スコア（ガバナンスリサーチ・スコア）を開発し、2017 年より毎年評価を行っている。GR スコアは、日本のコーポレートガバナンス・コード（以下、JCGC）を国内基準のベンチマークとし、ICGN グローバル・ガバナンス原則（以下、ICGP）をグローバル基準のベンチマークとして、企業のガバナンスの取り組みを評価している。GR スコア 2023 では、2022 年 12 月末時点の情報を基に、上場企業 109 社について評価を行った。

国内基準については、総合スコアの平均は 54.9 点、最高が 79 点、最低が 28 点となり、昨年の GR スコア 2022 の平均値から 2.4 ポイント上昇した。特に「リスクの監視」や「報告と監査」のスコアが改善している。

一方、グローバル基準については、総合スコアの平均は 29.7 点、最高が 50 点、最低が 12 点となり、昨年の GR スコア 2022 の平均値から 2.1 ポイント上昇した。

さらに、GR スコア 2017 と GR スコア 2023 のそれぞれのテーマごとの相関係数を確認したところ、「取締役会の責務」と「構成と指名」は、国内基準、グローバル基準に共通して、他のテーマと相関の高い項目が多く、このことから、取締役会の責務を明確にすることや取締役会が多様性に富んでいることは、その他のガバナンス課題の改善につながるものと考えられる。

## 目次

1. GR スコア 2023 の概要
  - 1.1 GR スコアの評価方法
2. GR スコア 2023 の状況
  - 2.1 GR スコア 2023 総合スコアの状況
  - 2.2 過去 7 年間の総合スコアの変遷
  - 2.3 GR スコア 2023 テーマ別スコアの状況
3. おわりに

## 1. GR スコア 2023 の概要

日興リサーチセンターでは、日本企業のコーポレートガバナンスの強さを評価する GR スコア（ガバナンスリサーチ・スコア）を開発し、2017 年より毎年評価を行っている<sup>1</sup>。GR スコアは、日本のコーポレートガバナンス・コード（以下、JCGC）を国内基準のベンチマークとし、ICGN グローバル・ガバナンス原則（以下、ICGP）をグローバル基準のベンチマークとして、企業のガバナンスの取り組みを評価している。本年の GR スコア 2023 は、日本の上場企業 109 社<sup>2</sup>を対象に、2022 年 12 月末時点までの情報を用いて評価を行った。本稿では、GR スコア 2023 の評価結果と過去 2017 年からの変遷について言及する。

### 1.1 GR スコアの評価方法

GR スコアは、9 つのテーマに分類される。具体的には、「取締役会の責務」「リーダーシップと独立性」「構成と指名」「企業文化」「リスクの監視」「報酬」「報告と監査」「株主総会」「株主の権利」である。

各評価項目は JCGC、ICGP の各原則を基にしているが、2021 年には、JCGC、ICGP のいずれも改訂された。このことを反映し、GR スコア 2022 より国内基準の評価項目は 35 項目から 36 項目に、グローバル基準は 36 項目から 38 項目に増えている（図表 1）。

図表 1 GR スコア 2023 の評価項目

テーマ	内容	評価項目数	
		国内基準 (36)	グローバル基準 (38)
取締役会の責務	取締役会の責務とそれに関する開示等	6	3
リーダーシップと独立性	取締役会による経営者に対するモニタリング機能の充実や効果等	7	5
構成と指名	取締役会の構成と取締役の指名の方針等	7	6
企業文化	取締役をはじめ従業員の倫理観やコンプライアンスに関する取り組み等	2	3
リスクの監視	取締役会でのリスクに対する取り組み等	1	3
報酬	経営者、取締役、従業員等の報酬制度や報酬決定のプロセス等	3	6
報告と監査	財務報告や内部統制報告、CSR 報告書などの開示資料に関する公表と監査に関する方針等	2	4
株主総会	総会決議事項など株主総会に関連した方針等	2	2
株主の権利	少数株主の保護など株主の権利に関連した方針等	6	6

（出所）日興リサーチセンター

<sup>1</sup> これまでの GR スコアについては、杉浦・寺山（2018a）、杉浦・寺山（2018b）、杉浦・寺山（2019）、日興リサーチセンター（2020）、杉浦・寺山（2021）、小原・杉浦（2022）を参照のこと。

<sup>2</sup> 2016 年の時価総額の平均値から 100 社を抽出し、2018 年に 8 社、2019 年に 3 社追加し、111 社を対象とした。その後、2 社上場廃止となり現在に至る。評価対象企業一覧は、Appendix A を参照されたい。

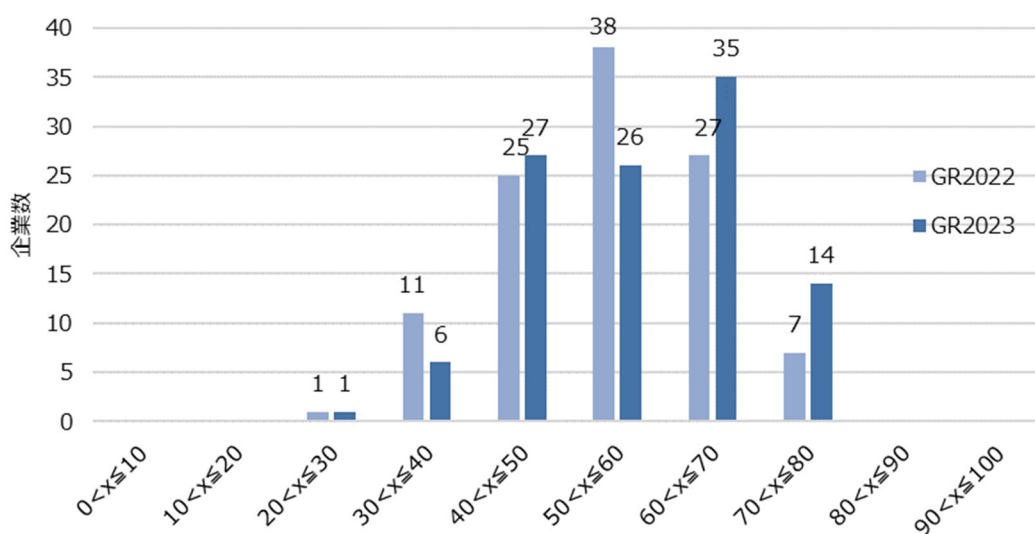
各評価項目は、詳細な評価基準から3段階または2段階の水準（Level1～3）で評価される。各評価項目についてLevel3を1点、Level2を0.5点、Level1を0点として総計し、評価総項目数により100%換算したものをGRスコアとしている。なお、各テーマのスコアについても同様の方法で算出している（各テーマのスコアの総計÷テーマ内の評価項目数）。具体的な評価項目については、Appendix Bを参照されたい。

## 2. GRスコア2023の状況

### 2.1 GRスコア2023総合スコアの状況

国内基準では、総合スコアの平均は54.9点、最高が79点、最低が28点となり、昨年のGRスコア2022の平均値から2.4ポイント上昇した。国内基準の分布（図表2）を見ると、GRスコア2022では「 $50 < x \leq 60$ 」を頂点としていたが、GRスコア2023では「 $60 < x \leq 70$ 」へと頂点が移動し、次に「 $40 < x \leq 50$ 」と「 $50 < x \leq 60$ 」に多く分布している。

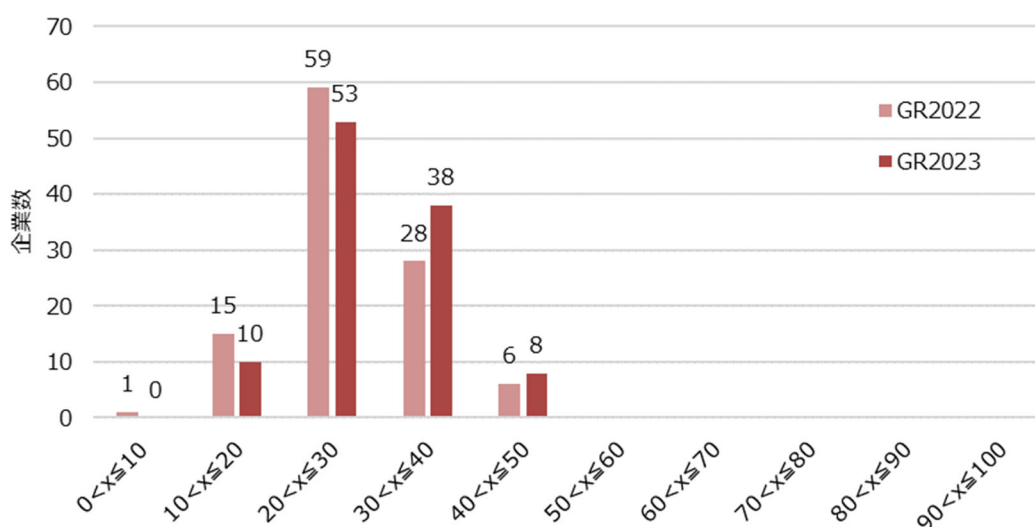
図表2 直近2年分の国内基準総合スコア分布の状況



(出所) 日興リサーチセンター

次に、グローバル基準では、平均が29.7点、最高が50点、最低が12点となり、昨年のGRスコア2022の平均値から2.1ポイント上昇した。グローバル基準の分布（図表3）を見ると、GRスコア2022、GRスコア2023ともに「 $20 < x \leq 30$ 」を頂点に、次に「 $30 < x \leq 40$ 」、「 $10 < x \leq 20$ 」に多く分布している。グローバル基準は国内基準に比べ評価基準がより厳格であることから、依然スコアが50点を超える企業はないものの、30点を超える企業が増えていることから、109社の中でも徐々にグローバル基準が進展しつつあることがわかる。

図表3 直近2年分のグローバル基準総合スコア分布の状況



(出所) 日興リサーチセンター

次に、国内基準とグローバル基準、それぞれの総合スコアトップ10（図表4）をみると、国内基準では、積水ハウス（79点）、明治ホールディングス（79点）、エーザイ（78点）、麒麟ホールディングス（75点）などが上位であった。

また、グローバル基準でのスコア上位は、エーザイ（50点）、オリンパス（49点）、三菱UFJフィナンシャル・グループ（47点）、三井住友トラスト・ホールディングス（42点）などであった。

なお、国内基準、グローバル基準の両基準においてトップ10入りした企業は、エーザイ、麒麟ホールディングス、プリチストン、三井住友トラスト・ホールディングス、オリンパス、三菱UFJフィナンシャル・グループの6社であった。

図表4 総合TOP10の状況

国内基準				グローバル基準			
順位	コード	企業名	スコア	順位	コード	企業名	スコア
1	1928	積水ハウス	79	1	4523	エーザイ	50
1	2269	明治ホールディングス	79	2	7733	オリンパス	49
3	4523	エーザイ	78	3	8306	三菱UFJフィナンシャル・グループ	47
4	2503	麒麟ホールディングス	75	4	8309	三井住友トラスト・ホールディングス	42
5	5108	プリチストン	74	4	4507	塩野義製薬	42
6	7011	三菱重工業	72	6	8411	みずほフィナンシャルグループ	41
6	1878	大東建託	72	6	6502	東芝	41
6	8309	三井住友トラスト・ホールディングス	72	6	8591	オルクス	41
9	7733	オリンパス	71	9	2503	麒麟ホールディングス	39
9	8053	住友商事	71	9	5108	プリチストン	39
9	9503	関西電力	71	9	8604	野村ホールディングス	39
9	2914	日本たばこ産業	71	9	2802	味の素	39
9	5020	E N E O Sホールディングス	71	9	6178	日本郵政	39
9	8306	三菱UFJフィナンシャル・グループ	71	9	4568	第一三共	39

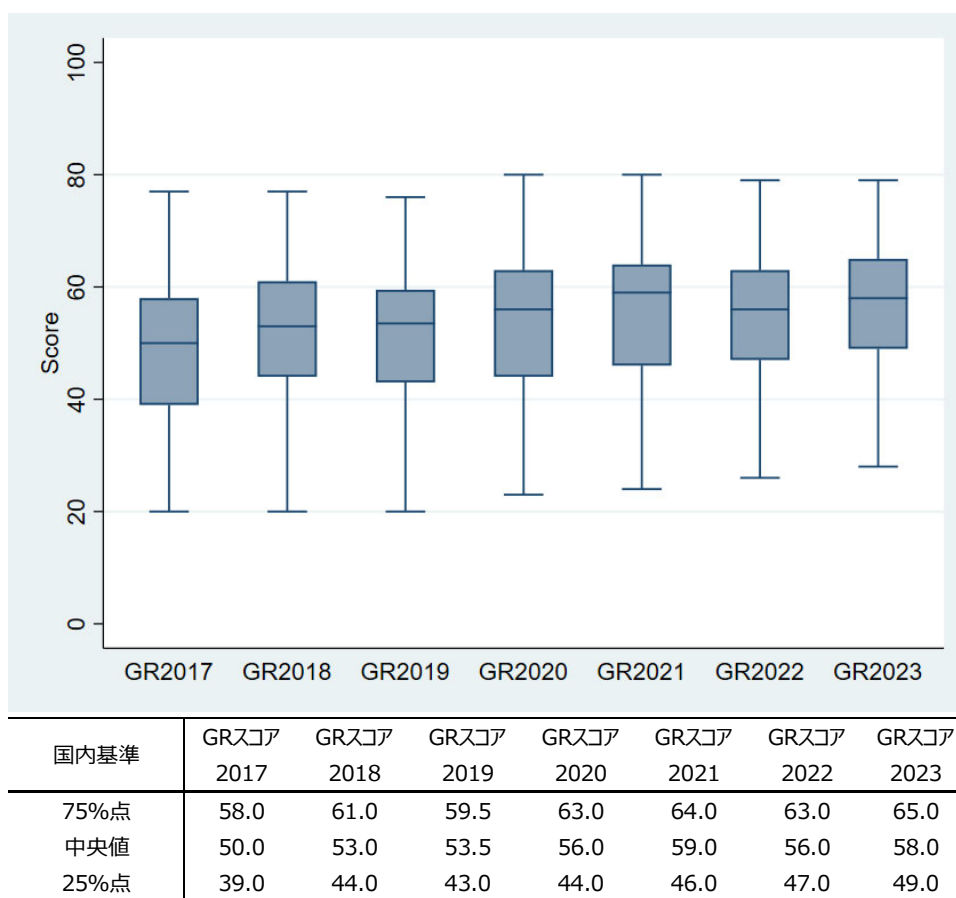
(出所) 日興リサーチセンター

## 2.2 過去7年間の総合スコアの変遷

図表5は、国内基準総合スコアに関する、箱ひげ図と各分位点<sup>3</sup>の、7年間の推移である。2017年から2023年にかけて、国内基準総合スコアの中央値は8.0ポイント上昇（50.0→58.0）し、第1四分位点（25%点）は10.0ポイント上昇（39.0→49.0）、第3四分位点（75%点）は7.0ポイント上昇（58.0→65.0）している。

直近の3年間では、中央値、75%点の変動はほとんどみられないものの、25%点が連続して上昇したことで、企業間のスコア格差が縮小傾向にあることがわかる。

図表5 国内基準総合スコアの分布の推移

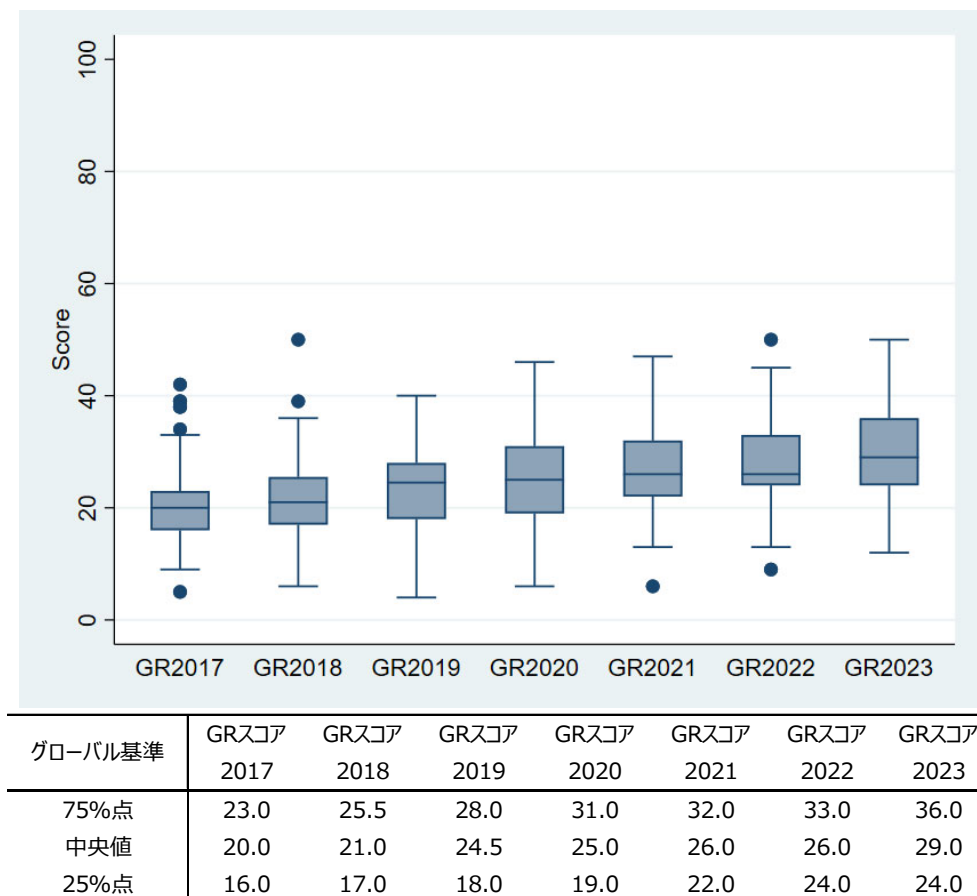


(出所) 日興リサーチセンター

一方、グローバル基準では、2017年から2023年にかけて、総合スコアの中央値が9.0ポイント（20.0→29.0）上昇し、25%点は8.0ポイント（16.0→24.0）上昇、75%点は13.0ポイント（23.0→36.0）上昇している（図表6）。25%点、75%点いずれも5年連続で上昇しており、全体として、緩やかにスコア改善の傾向にある。

<sup>3</sup> 総合スコアを小さい順に並べたときに、総数の1/4番目にあたる値が第1四分位、真ん中にあたる値が第2四分位（中央値）、3/4番目にあたる値が第3四分位である。

図表6 グローバル基準総合スコアの分布の推移



(出所) 日興リサーチセンター

(注) ドットは、第1四分位と第3四分位から推定される範囲（図表内のバーの位置）を超えた数値（外れ値）のことを指す。

### 2.3 GR スコア 2023 テーマ別スコアの状況

次に、GR スコア 2023 のテーマ別の状況を確認する（図表 7）。

国内基準については、「株主総会」（82.1）、「報酬」（80.9）、「報告と監査」（64.4）のスコアが相対的に高く、一方で、「リスクの監視」（34.4）、「リーダーシップと独立性」（41.6）、「取締役会の責務」（43.2）が相対的に低い。また、GR スコア 2022 と比較すると、「リスクの監視」（10.6 ポイント増）や「報告と監査」（7.6 ポイント増）などが上昇している。

「リスクの監視」のスコアが上昇した要因として、取締役会がリスク管理に関する体制整備やその有効性を監督していることに言及する企業が増えたことが挙げられる。また、「報告と監査」では、非財務情報として、気候変動に関連した排出削減目標や実績、戦略、リスク管理に対する取り組みといった情報や人的資本に関する方針や目標、KPI などの記述が充実したことが挙げられる。

図表 7 国内基準のテーマ別スコアの状況（サンプル数：109社）

国内基準	平均	GR2022 との差	GR2017 との差	標準偏差	最小	最大
取締役会の責務	43.2	2.5	3.7	16.5	17	92
リーダーシップと独立性	41.6	0.2	5.1	17.4	14	79
構成と指名	57.9	3.6	5.3	13.7	7	86
企業文化	51.6	0.7	5.3	28.4	0	100
リスクの監視	34.4	10.6	-	41.9	0	100
報酬	80.9	3.0	52.1	12.9	50	100
報告と監査	64.4	7.6	4.5	20.6	0	100
株主総会	82.1	2.1	-2.8	18.5	50	100
株主の権利	57.7	0.3	3.8	16.3	33	100
総合	54.9	2.4	8.8	11.0	28	79

(出所) 日興リサーチセンター

次に、各テーマがそれぞれどのように関連し、それが年によってどのように変わっているのかを把握するため、GR スコア 2017 と GR スコア 2023 のそれぞれのテーマごとの相関行列を確認する（図表 8）。なお、ここでは p 値が 1%未満となったものだけを取り上げ、赤字になっている個所は共通して相関係数の大きいことを表す。図表からもわかるように、GR スコア 2017 と GR スコア 2023 とで相関係数の大きい項目に大きな違いがない。例えば、「取締役会の責務」と相関の高いテーマは、「リーダーシップと独立性」「構成と指名」「報酬」「報告と監査」「株主の権利」の 5 項目が挙げられる。その他に「構成と指名」「株主の権利」についても同様の傾向がみられる。つまり、取締役会の責務が明確な企業や、取締役会の構成が多様な企業、株主の権利（関連当事者取引や政策保有に対する取り組みなど）を意識している企業は、様々なガバナンスに対する取り組みも進む傾向にあると考えられる。

図表 8 国内基準のテーマ別相関行列（上段：GR スコア 2017、下段：GR スコア 2023）

GRスコア2017 国内基準	取締役会 の責務	リーダー シップと独 立性	構成と指 名	企業文化	リスクの監 視	報酬	報告と監 査	株主総会	株主の権 利
取締役会の責務	1								
リーダーシップと独立性	0.3057*	1							
構成と指名	0.4625*	0.7186*	1						
企業文化				1					
リスクの監視					1				
報酬	0.3329*	0.4593*	0.6483*			1			
報告と監査	0.3069*	0.4199*	0.3754*				1		
株主総会			0.2872*					1	
株主の権利	0.5218*	0.3974*	0.4891*	0.3182*		0.3134*	0.3537*		1

(注) GRスコア2017国内基準では「リスクの監視」の項目がないため、相関係数を計算していない

GRスコア2023 国内基準	取締役会 の責務	リーダー シップと独 立性	構成と指 名	企業文化	リスクの監 視	報酬	報告と監 査	株主総会	株主の権 利
取締役会の責務	1								
リーダーシップと独立性	0.4481*	1							
構成と指名	0.4426*	0.4969*	1						
企業文化	0.3153*			1					
リスクの監視					1				
報酬	0.3788*	0.2908*	0.5077*	0.2477*		1			
報告と監査	0.4091*	0.4799*	0.5044*			0.3559*	1		
株主総会								1	
株主の権利	0.4852*		0.2928*	0.2917*		0.2853*	0.3328*		1

(出所) 日興リサーチセンター

次に、グローバル基準のテーマ別スコアでは、図表 9 が示すように、「株主総会」(71.3)のスコアが高く、一方「リスクの監視」(9.3)や「取締役会の責務」(17.9)、「リーダーシップと独立性」(18.0)等が低い結果となった。

GR スコア 2022 と比較すると、「企業文化」(7.3 ポイント増)のスコアが上昇している。「企業文化」のスコアが上昇した要因としては、昨年に引き続き、利用の範囲が従業員に限らず、取引先・その他ステークホルダーにまで及ぶ内部通報制度を設けている企業が増加したことによる。

図表 9 グローバル基準のテーマ別スコアの状況（サンプル数：109 社）

グローバル基準	平均	GR2022 との差	GR2017 との差	標準偏差	最小	最大
取締役会の責務	17.9	-0.1	-3.1	14.5	0	67
リーダーシップと独立性	18.0	0.7	5.4	15.7	0	60
構成と指名	32.5	2.3	14.3	13.3	8	67
企業文化	39.4	7.3	19.1	22.9	0	100
リスクの監視	9.3	1.7	2.3	18.0	0	83
報酬	27.6	3.5	23.5	15.3	0	67
報告と監査	32.4	2.5	1.1	10.1	13	63
株主総会	71.3	0.2	-7.2	10.1	50	100
株主の権利	34.1	0.9	6.7	8.4	17	67
総合	29.7	2.1	8.8	7.9	12	50

(出所) 日興リサーチセンター



国内基準同様、GR スコア 2017 と GR スコア 2023 のテーマ間の相関行列 (図表 10) を確認すると、グローバル基準は国内基準よりも、相関係数の大きい項目が少なく、また GR スコア 2017 と GR スコア 2023 で共通して相関の高い項目 (図表内赤字部分) も 4 項目と少ない。2 つのスコアで共通している項目以外で相関の高い組み合わせ (図表内黒字部分) は、GR スコア 2017 では

「報告と監査」と「リーダーシップと独立性」

「報告と監査」と「報酬」

「株主の権利」と「構成と指名」

「株主の権利」と「報告と監査」

であり、GR スコア 2023 では

「リーダーシップと独立性」と「取締役会の責務」

「構成と指名」と「取締役会の責務」

「企業文化」と「リーダーシップと独立性」

「報酬」と「リーダーシップと独立性」

「報酬」と「企業文化」

であった。特に、GR スコア 2023 において、相関の高い項目を多く含むテーマとしては、「取締役会の責務」「リーダーシップと独立性」「構成と指名」などが挙げられる。

図表 10 グローバル基準のテーマ別相関行列 (上段 : GR スコア 2017、下段 : GR スコア 2023)

GRスコア2017 グローバル基準	取締役会 の責務	リーダ ーシッ プと独 立性	構成と指 名	企業文化	リスクの監 視	報酬	報告と監 査	株主総会	株主の権 利
取締役会の責務	1								
リーダーシップと独立性		1							
構成と指名		0.4978*	1						
企業文化				1					
リスクの監視	0.2980*				1				
報酬			0.4288*			1			
報告と監査		0.2597*	0.4330*			0.2736*	1		
株主総会								1	
株主の権利			0.3433*				0.2789*		1

GRスコア2023 グローバル基準	取締役会 の責務	リーダ ーシッ プと独 立性	構成と指 名	企業文化	リスクの監 視	報酬	報告と監 査	株主総会	株主の権 利
取締役会の責務	1								
リーダーシップと独立性	0.3656*	1							
構成と指名	0.3837*	0.5339*	1						
企業文化		0.2491*		1					
リスクの監視	0.2842*				1				
報酬		0.4017*	0.3667*	0.3085*		1			
報告と監査			0.2662*				1		
株主総会								1	
株主の権利									1

(出所) 日興リサーチセンター

以上の結果から、グローバル基準では、国内基準に比べ、全般的なガバナンスの強化には至っていないことは明らかである。また GR スコア 2017 と GR スコア 2023 の比較から、相関の高い項目の組み

合わせも変わっており、特に直近のスコアでは、取締役会における責務の明確さやリーダーシップの高さ、取締役会の多様性など、取締役会の役割が豊富で充実していることが企業ガバナンス強化において重要な役割を果たしているといえる。

### 3. おわりに

GR スコア 2023 の国内基準については、総合スコアの平均は 54.9 点、最高が 79 点、最低が 28 点となり、昨年の GR スコア 2022 の平均値から 2.4 ポイント上昇した。前年スコアと比べ、109 社の分布は右に移動しており、全般的にガバナンスの改善が確認された。特に「リスクの監視」や「報告と監査」のスコアが改善している。また、テーマ間の相関係数を GR スコア 2017 と GR スコア 2023 について確認すると、相関の高いテーマの組み合わせが共通していた。

一方、グローバル基準については、総合スコアの平均は 29.7 点、最高が 50 点、最低が 12 点となり、昨年の GR スコア 2022 の平均値から 2.1 ポイント上昇した。グローバル基準でも、国内基準と同様、前年スコアに比べ、分布が右に移動しており、全般的にガバナンスの改善が確認された。だが、グローバル基準では、テーマ間の相関係数は国内基準に比べ小さく、GR スコア 2017 と GR スコア 2027 で共通する組み合わせも少ない。

しかし、国内基準もグローバル基準でも、「取締役会の責務」「構成と指名」は他のテーマと相関の高い項目が多く、このことから、取締役会の役割を明確にすることや、取締役会が多様性に富んでいることは、その他のガバナンス課題の改善につながるものと考えられる。

#### 【参考文献】

- 小原萌香・杉浦康之（2022）「GR スコア 2022 の状況」、日興リサーチレビュー
- 寺山恵・杉浦康之（2018a）「GR スコア（ガバナンスリサーチ・スコア）の開発- 日本企業のコーポレートガバナンスはどれくらい強いのか?」、日興リサーチレビュー
- 寺山恵・杉浦康之（2018b）「GR スコア 2018 の状況」、日興リサーチレビュー
- 寺山恵・杉浦康之（2019）「GR スコア 2019 の状況」、日興リサーチレビュー
- 寺山恵・杉浦康之（2021）「GR スコア 2021 の状況」、日興リサーチレビュー
- 日興リサーチセンター（2020）「GR スコア 2020 及び GR スコア企業 111 社のガバナンス状況」

## Appendix A 評価対象企業一覧

証券コード	社名	証券コード	社名
1605	INPEX	6902	デンソー
1878	大東建託	6954	ファナック
1925	大和ハウス工業	6971	京セラ
1928	積水ハウス	6981	村田製作所
2267	ヤクルト本社	6988	日東電工
2269	明治ホールディングス	7011	三菱重工業
2502	アサヒグループホールディングス	7181	かんぽ生命保険
2503	麒麟ホールディングス	7182	ゆうちょ銀行
2587	サントリー食品インターナショナル	7201	日産自動車
2802	味の素	7203	トヨタ自動車
2914	日本たばこ産業	7259	アイシン
3382	セブン&アイ・ホールディングス	7267	本田技研工業
3402	東レ	7269	スズキ
3407	旭化成	7270	S U B A R U
4063	信越化学工業	7309	シマノ
4188	三菱ケミカルグループ	7733	オリンパス
4324	電通グループ	7741	H O Y A
4452	花王	7751	キヤノン
4502	武田薬品工業	7974	任天堂
4503	アステラス製薬	8001	伊藤忠商事
4507	塩野義製薬	8031	三井物産
4508	田辺三菱製薬	8035	東京エレクトロン
4519	中外製薬	8053	住友商事
4523	エーザイ	8058	三菱商事
4528	小野薬品工業	8113	ユニ・チャーム
4543	テルモ	8267	イオン
4568	第一三共	8306	三菱UFJフィナンシャル・グループ
4578	大塚ホールディングス	8309	三井住友トラスト・ホールディングス
4661	オリエンタルランド	8316	三井住友フィナンシャルグループ
4689	Zホールディングス (現・LINEヤフー)	8411	みずほフィナンシャルグループ
4755	楽天グループ	8591	オリックス
4901	富士フイルムホールディングス	8604	野村ホールディングス
4911	資生堂	8630	S O M P Oホールディングス
5020	ENEOSホールディングス	8725	M S & A Dインシュアランスグループホールディングス
5108	プリチストン	8750	第一生命ホールディングス
5401	日本製鉄	8766	東京海上ホールディングス
5411	J F Eホールディングス	8801	三井不動産
5802	住友電気工業	8802	三菱地所
6098	リクルートホールディングス	8830	住友不動産
6178	日本郵政	9020	東日本旅客鉄道
6201	豊田自動織機	9021	西日本旅客鉄道
6273	S M C	9022	東海旅客鉄道
6301	小松製作所	9201	日本航空
6326	クボタ	9202	A N Aホールディングス
6367	ダイキン工業	9432	日本電信電話
6501	日立製作所	9433	K D D I
6502	東芝	9434	ソフトバンク
6503	三菱電機	9437	N T Tドコモ
6594	日本電産 (現・ニデック)	9503	関西電力
6702	富士通	9531	東京ガス
6723	ルネサスエレクトロニクス	9613	エヌ・ティ・ティ・データ (現・N T Tデータグループ)
6752	パナソニックホールディングス	9735	セコム
6753	シャープ	9843	ニトリホールディングス
6758	ソニーグループ	9983	ファーストリテイリング
6861	キーエンス	9984	ソフトバンクグループ
6869	シスメックス		

## Appendix B GRスコア 2023 の評価項目

No	テーマ	評価項目	国内基準	グローバル基準
1	取締役会の責務	取締役会の範囲	○	○
2	取締役会の責務	他社の取締役の兼任	○	○
3	取締役会の責務	会社提案議案	○	-
4	取締役会の責務	株主との対話（1）対話する相手	○	-
5	取締役会の責務	株主との対話（2）対話の方針	○	-
6	取締役会の責務	株主との対話（3）対話の内容	○	○
7	リーダーシップと独立性	議長及び最高経営責任者（執行と監督の分離）	○	○
8	リーダーシップと独立性	筆頭独立取締役	○	○
9	リーダーシップと独立性	取締役会の実効性	○	○
10	リーダーシップと独立性	取締役の独立性	○	○
11	リーダーシップと独立性	独立取締役のみのミーティング	○	○
12	リーダーシップと独立性	独立取締役の責務	○	-
13	リーダーシップと独立性	会社法上の機関設定と任意の委員会	○	-
14	構成と指名	取締役会の構成	○	○
15	構成と指名	取締役会の多様性	○	○
16	構成と指名	取締役の在任期間	-	○
17	構成と指名	任命プロセス	○	○
18	構成と指名	取締役の評価	○	○
19	構成と指名	指名委員会	○	○
20	構成と指名	経営者継承計画のモニタリング	○	-
21	企業文化	贈賄と汚職	-	○
22	企業文化	内部通報	○	○
23	企業文化	従業員の行動	○	○
24	リスクの監視	リスクマネジメント：プロアクティブな監視	○	○
25	リスクの監視	リスクマネジメント：リスク対処カルチャー	-	○
26	リスクの監視	リスクマネジメント：リスク委員会	-	○
27	報酬	利益の一致	○	○
28	報酬	執行取締役の長期インセンティブ方針	-	○
29	報酬	年次報酬報告書	-	○
30	報酬	パフォーマンス（特にリスク）	○	○
31	報酬	非業務執行取締役の報酬	-	○
32	報酬	報酬委員会	○	○
33	報告と監査	非財務情報	○	○
34	報告と監査	監査委員会	○	○
35	報告と監査	外部監査人の交代（ローテーション）	-	○
36	報告と監査	外部監査人選解任に関する株主承認	-	○
37	株主総会	招集通知	○	○
38	株主総会	議決権行使の方法	○	○
39	株主の権利	株主の平等・救済	○	○
40	株主の権利	重要事項の決定（買収防衛策）	○	○
41	株主の権利	重要事項の決定（株主資本）	○	○
42	株主の権利	利益相反	-	○
43	株主の権利	関連当事者取引	○	○
44	株主の権利	会社の責務：政策保有の開示	○	○
45	株主の権利	会社の責務：政策保有売却の妨げ	○	-
46	構成と指名	CEOの解任方針	○	-

※ハイライトした箇所はGRスコア2022から追加した項目

(END)